

飼料用大豆・高栄養TMR生産調製技術の実証・普及事業

○事業内容

リビングマルチを活用した飼料用大豆の実証

○支援対象者

飼料作物の収穫作業等を受託するコントラクターやTMRの調製・供給を行うTMRセンター又はこれに準ずる者

○支援対象の費目

右表のとおり

○支援期間

播種準備から収穫調製、結果取りまとめまで

○手続き

リビングマルチを用いた飼料用大豆の実証事業の手引きを参照

○支援対象の費目

費目	概要
ほ場借上料	実証圃の借上げ料
消耗資材費	牧草・飼料用大豆種子、肥料、農薬等購入費
賃借料	大豆不耕起播種機、ディスクハロー等借料
実証調査ほ看板費	看板作成・設置費
作業費	コントラクター等による作業料、作業賃金
調製資材費	サイレージ調製用ラップ、発酵促進剤等
役務費	飼料一般成分分析費
旅費	研究機関等調査打合せ旅費
報告書作成	賃金、消耗品

○上限額

原則として50a、1箇所当たり150万円

飼料作物の収穫作業等を受託するコントラクターやTMRの調製・供給を行うTMRセンターは、良質な国産粗飼料の生産利用拡大に大きく貢献

TMRの調製に不可欠なタンパク質原料であるアルファルファ乾草や大豆粕等の多くが輸入されているが、近年、価格が高騰し将来的な供給が懸念。一方、国産の飼料用大豆は日本の気象環境に適しており、その活用が注目されるが、飼料用大豆栽培に使用できる登録農薬がほとんどなく、雑草の防除が栽培・利用上の大きな課題。



イネ科牧草をリビングマルチとして雑草を抑制する飼料用大豆の栽培・利用体系が、農研機構東北農業研究センターにより岩手県中部において開発。

飼料用大豆・高栄養TMR生産調製実証事業

1. 飼料用大豆・高栄養TMR生産調製実証推進委員会等開催事業

学識経験者等からなる飼料用大豆・高栄養TMR生産調製実証推進委員会を開催し、事業全体の円滑な実施方針の策定、事業推進に係る検討及び事業の達成目標等の自己評価結果に対する客観的な検証を行う。

2. 飼料用大豆・高栄養TMR生産調製技術実証事業

(1) リビングマルチを導入した飼料用大豆の栽培・利用体系の確立

飼料用大豆に適した品種等を選定するため、品種比較試験等を行い生育特性・収量等を調査するとともに、イネ科牧草を用いたリビングマルチを導入し、飼料用大豆の安定生産のための地域に合った栽培・利用体系を確立する。

(2) 飼料用大豆・高栄養TMR生産調製技術の実証・普及

(1)で確立した技術等を利用して、コントラクターによる実証規模の飼料用大豆の生産及びTMRセンターでのTMR調製の実証を行い、成果の普及を図るため現地検討会の開催、普及用資料の作成等を行う。

変動の激しい輸入飼料への過度の依存体質からの脱却による畜産経営の安定化を実現。

イネ科牧草をリビングマルチとして利用しSDGsの達成に資する無農薬・低コスト栽培の粗飼料生産の展開。